

Global Catastrophizing vs Catastrophizing Subdomains : Assessment and Associations with Patient Functioning

岩城, 理恵

<https://hdl.handle.net/2324/1441086>

出版情報 : 九州大学, 2013, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :
権利関係 : やむを得ない事由により本文ファイル非公開 (2)



氏名：岩城理恵

論文題名：**Global Catastrophizing vs Catastrophizing Subdomains: Assessment and Associations with Patient Functioning**

(慢性疼痛患者の機能障害の評価及び関連－破局化質問紙総点対下位尺度－)

区分分：甲

論文内容の要旨

目的：当研究の主な目的は、(1)日本人サンプルにおいて Pain Catastrophizing Scale (PCS) の項目の 3 因子構造を確認すること、および(2)慢性疼痛を有する患者サンプルにおいて、痛みと機能障害の測定尺度と最も関連がある破局化の下位尺度を同定することである。

デザイン：本研究は観察的横断研究である。

設定：本研究は大学病院で実施された。

患者：慢性疼痛をもつ 160 人の外来患者が本研究に参加した。その内訳は、男性 48 名 (30.0%)、女性 112 名 (70.0%)、平均年齢 (SD) は 51.27(16.39) 歳、平均疼痛罹病期間 (SD) は 57.74(79.78) であった。

結果測定尺度：患者は、PCS、Brief Pain Inventory、Hospital Anxiety Depression Scale を記入した。その内、30 例の患者は、1~4 週後に、再び PCS を記入した。

結果：確証的因子分析では日本語版 PCS の 3 因子構造が示された。そして、妥当性基準との単変量および多変量相関によりこの質問紙の妥当性を証明した。破局的無力感は痛み強度、痛みによる生活障害とうつの独立した予測因子であることが示された。そして、破局的拡大視は不安の独立した予測因子であった。

結論：本研究の研究結果は、PCS の 3 因子構造の異文化間の普遍性を支持するものであった。また、PCS により評価される破局化の総点よりも、下位尺度の方が、痛み関連機能を理解するためにより重要な役割を果たすことが証明された。